

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

京都観世会六月例会

令和元年6月23日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



主催 公益社団法人 京都観世会

通小町 〈能〉

河村晴久

栗田口 〈狂言〉

小笠原 匡

隅田川 〈能〉

浅見真州

鶉飼 〈能〉

吉田篤史

会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

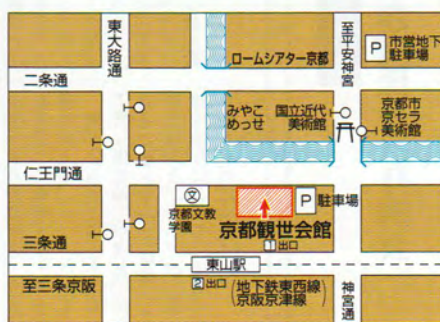
お問合せ・お申込み ☎ 075-771-6114

WEBサイトの公演情報からご予約ができます <http://www.kyoto-kanze.jp>

チケットぴあでのご購入ができます Pコード: 490-629

前売券 (1階当日指定席) 6,000円
当日券 (1階当日指定席) 6,500円
学生券 (2階自由席) 3,000円

京都観世会館案内図



- ◆京都観世会館へは
JR京都駅から—市バス[5][100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約30分)
地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」で東西線乗り換え「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
- 阪急河原町駅から—市バス[31][46][201][202][203][206]で「東山仁王門」下車 (乗車時間約15分)
- 京阪三条駅から—市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約7分)
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
- JR二条駅から—地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
- 山科・醍醐方面から—地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
- 地下鉄東西線「東山駅」から—徒歩約5分

◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

京都観世会六月例会

里女 味方 團
小野小町 深草少将 深草少将 河村晴久

通小町

旅僧 江崎正左衛門

大鼓 河村 大
小鼓 吉阪 一郎

笛 左 鴻 泰 弘

(能)

粟田口

大名 小笠原 匡

太郎冠者 山本豪一
すっぱ泉 慎也

(狂言)

(一時頃)

梅若丸 味方 遙

隅田川

渡守 宝生欣哉
旅人 野口能弘

大鼓 國川 純
小鼓 大倉源次郎

笛 杉 市和

(能)

観阿弥 弥祭

芦 刈 井上裕久
自然居士 浦田保浩
芭蕉 片山九郎右衛門
狸々 大江又三郎

(仕舞)

鶉飼

旅僧 江崎欽次郎
従者 和田英基

大鼓 河村裕一郎
小鼓 曾和鼓堂

太鼓 前川光長
笛 森田保美

問 所の香泉 慎也

附 祝 言

(終了予定 四時半頃)

後見・地謡

(後見) 吉浪壽見
杉浦豊彦

樹下千慧 片山伸吾
大江広祐 河村博重
深野貴彦 河村和重
田茂井廣道 越賀隆之

(後見) 安田典幸

(後見) 味方 玄
大江又三郎

河村浩太郎 古橋正邦
大江泰正 浦田保浩
橋本忠樹 片山九郎右衛門
浅井通昭 浦田保親

(地謡) 河村和晃
河村晴道
青木道喜
浦部幸裕

(後見) 分林道治
井上裕久

浦田親良 松野浩行
河村和貴 大江信行
宮本茂樹 橋本光史
梅田嘉宏 林 宗一郎

解説

八瀬の山里で夏籠りをする僧の所に、毎日本の実や薪を持参する女がいた。不審に思った僧が名を尋ねると、市原野に住む者であると言つて消え失せる。僧は女の言葉の端々から、今の女が小野小町の幽霊であると思ひ当たり、市原野へと出向く。僧が供養をしていると、やがて小野小町の霊が現れ、受戒を乞う。すると今度は深草少将の霊が現れ、これを拒もうとする。少将は生前、小町に恋をして「百夜通い」をしたが、ついに思いを果たせず、今も地獄で苦しんでいるのであった。僧の乞うままに少将の霊は「百夜通い」の有様を見せるが、そのうちに小町が論した「飲酒戒」を守つたことによつて、悟りの道に通じ、多くの罪業を消滅させることができた二人は仏道成就を果たす。

隅田川

旅人が武蔵国・隅田川の渡りに着き、渡守に舟を乞う。その後ろから、これも都よりわが子の行くえを尋ねて下つてきた狂女が着く。狂女は「名にし負はばいざ言問はん都鳥我が思ふ人はありやなしや」といふ「伊勢物語」の歌をひいて、都鳥にわが子の行くえを問う。渡守はこの心優しい狂女を舟に乗せ、船中で、去年ここのであった話をす。昨年の今日、人買いに連れられてきた子が、疲労の末この河岸で息絶えた。その弔いの大念仏に人々が多く集つていて、その母は船中の狂女こそ、その母であった。渡守は母を墓所へ案内し、泣き伏す母に弔いを勧め、母の弔いにひかれるように、子の幽霊が現れる。母は子を抱き取るうと走り寄るが、幻のように消え去る。あとは塚の上の春草に、川風が渡るばかりであった。数多くの物狂物は、男物狂も含めて、すべてハッピーエンドに終るが、これ一曲のみ結末を異にする。

鶉飼

旅の僧が甲斐国石和で宿を求めると、貸してもらえず、川沿いの御堂に泊まる。そこに鶉使いの老人がやってくる。僧は鶉使いの老人に殺生戒を説く。従僧は、昔この辺を通つた時にこのような鶉使いに殺生戒を論し、一夜の宿の接待を受けた。老人はそれを思い出して、話をす。老人はそれを思い出して、話をす。老人はそれを思い出して、話をす。老人はそれを思い出して、話をす。

お客様へお願い

- ◆特別会員席以外の座席券は、当日午前10時から先着順にお引換えいたします。
- ◆上演中のお出入りはなるべくご遠慮ください。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆場内では携帯電話等の呼出音をお切りください。
- ◆予告なく出演者等に変更がある場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆東隣に有料駐車場がございます。満車の際は岡崎公園市営地下駐車場をご利用ください。

【表紙写真】

隅田川 浅見真州所蔵
(株)前島写真店撮影

次回予告

京都観世会八月例会

令和元年8月25日(日)

午前11時開演

- (能) 兼平 片山伸吾
- (狂言) 蝸牛 小笠原匡
- (能) 定家 梅若実
- (能) 善界 大江広祐